

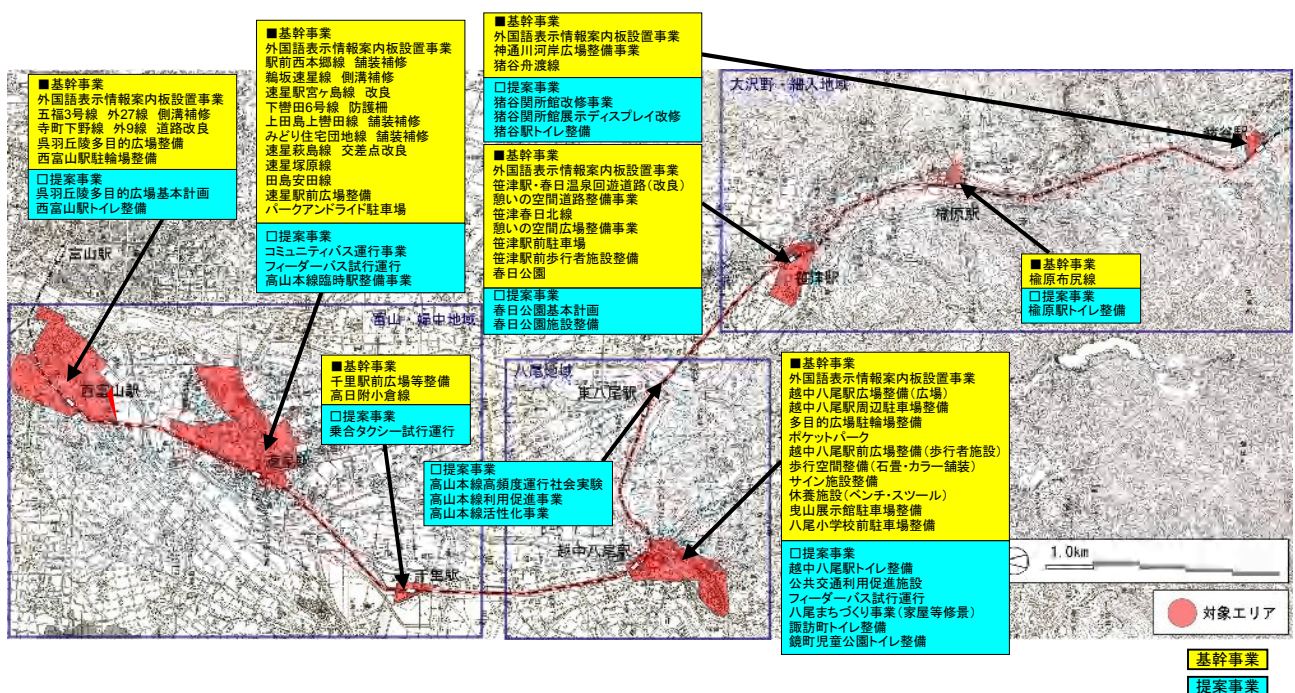
(富山県富山市)

市人口：417,024 人

■まちづくりストーリー

- ・近年の高山本線の利用者数は減少の一途をたどり、現在の状況を放置すれば、今後さらに運行サービスレベルの低下をきたすことは必至で、近い将来、路線の存続自体も楽観を許さない状況に陥ることも予想される。
- ・人口減少や少子高齢化などの課題に対応するため、車に頼らなくても安心して、安全に暮らせるまちづくりを推進する必要がある。
- ・都心部へのアクセス向上と観光客の利便性向上のため、鉄道の利便性向上、駅へのアクセス道路の整備、駅周辺施設の整備が必要である。
- ・八尾地区は祭事や歴史的まち並みに特徴のある地区であるが、これらの資源を活用するとともに、市民や観光客が快適にまちを回遊できるような道路やサインなどの整備が必要である。

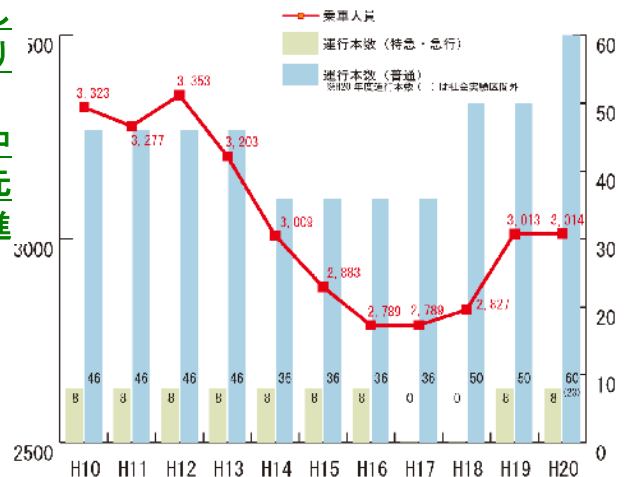
- ・公共交通の活性化によるコンパクトなまちづくりを推進するため、公共交通の利用者数の増加、観光客入込数及び沿線居住者数の増加を目標とした。



■まちづくりのポイント

- 高山本線沿線における鉄軌道活性化事業としての既存鉄道の高頻度運行社会実験、まちづくり交付金事業による沿線まちづくりの一体的推進
- 「婦中鵜坂駅利用促進協議会」や「八尾地区中心市街地まちづくり計画推進協議会」など、地元住民による協議会と連携した計画策定、事業推進

- ・高山本線高頻度運行社会実験
(運行頻度の増加、運行頻度の増加)
- ・高山本線利用促進事業
(利用啓発ポスター、チラシ、ホームページの作成、駅舎・車両のイメージアップ等)
- ・高山本線臨時駅整備事業の推進
(駅ホーム整備、臨時駅利用促進に係るモビリティマネジメント等)



＜高山本線利用状況＞



＜利用啓発ポスター＞



■まちづくりへのコメント

●富山市長 森 雅志氏

本市では鉄道駅などを中心とした地域の拠点を「お団子」、公共交通を「串」に見立てた、「お団子と串」の都市構造を目指してまちづくりに取り組んでいます。

本地区では、高山本線高頻度運行社会実験を軸に鉄道利用の利便性を向上させるとともに、沿線地区内の街路、公園をはじめとする都市基盤施設の整備を行い、潤いのある住環境の創出を進めています。

少しずつではありますが、事業の効果が現れているものと考えており、今後も引き続き沿線のまちづくりのあり方を沿線の地元住民と協議しながら、車に頼らなくても安心して暮らせるコンパクトなまちが形成されると確信しています

●婦中鵜坂駅利用促進協議会会長 竹内 文彦氏

「婦中鵜坂駅」の開業に伴い、同地区の鵜坂地区自治振興会が中心となって設立された婦中鵜坂駅利用促進協議会では、当駅が住民の生活駅と成るべく、通学定期代の一部補助、高山本線を利用したスタンプラリー、駅周辺の除草作業や桜並木の植樹等、利用促進、活性化などに取り組んで来しました。

その効果もあり、駅が住民の生活の中に浸透してきました。この地区はまだ人口が増え、利用者が更に増えることと思っています。社会実験後に本格駅になることを期待し、今後も利用促進に取り組んで行きたいと思います